

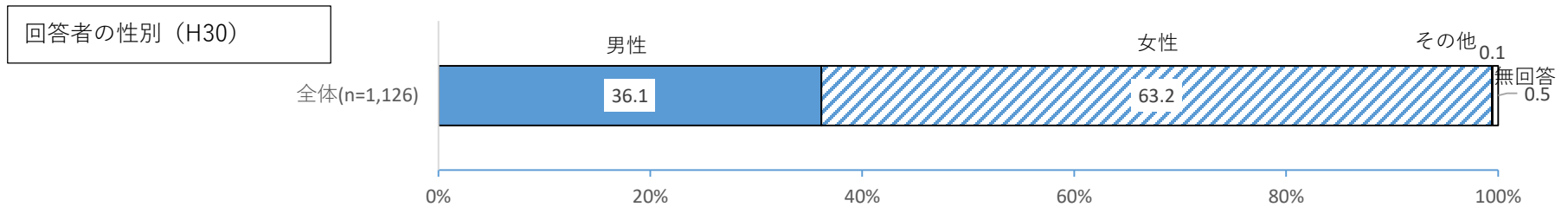
大阪市次世代育成に関する若者意識調査結果について

◆調査方法と回収状況

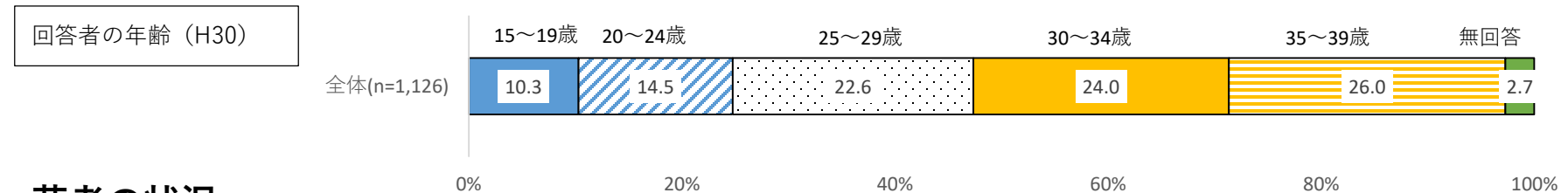
実施調査	大阪市次世代育成支援に関する若者意識調査
対象者	市内に在住する15歳から39歳までの若者
	住民基本台帳等から無作為抽出した5,000人
調査方法	調査対象者に調査票を郵送により配布し、郵送により回収。
調査期間	平成30年12月 7 日～平成31年1月11日
回収状況	有効回答数 1,126人（有効回答率 22.5%）
	（平成25年調査） 調査対象数 8,000人 有効回答数 2,154人（有効回答率 26.9%）

回答者のプロフィール

➤ 回答者の性別は、「男性」が36.1%、「女性」が63.2%となっている。

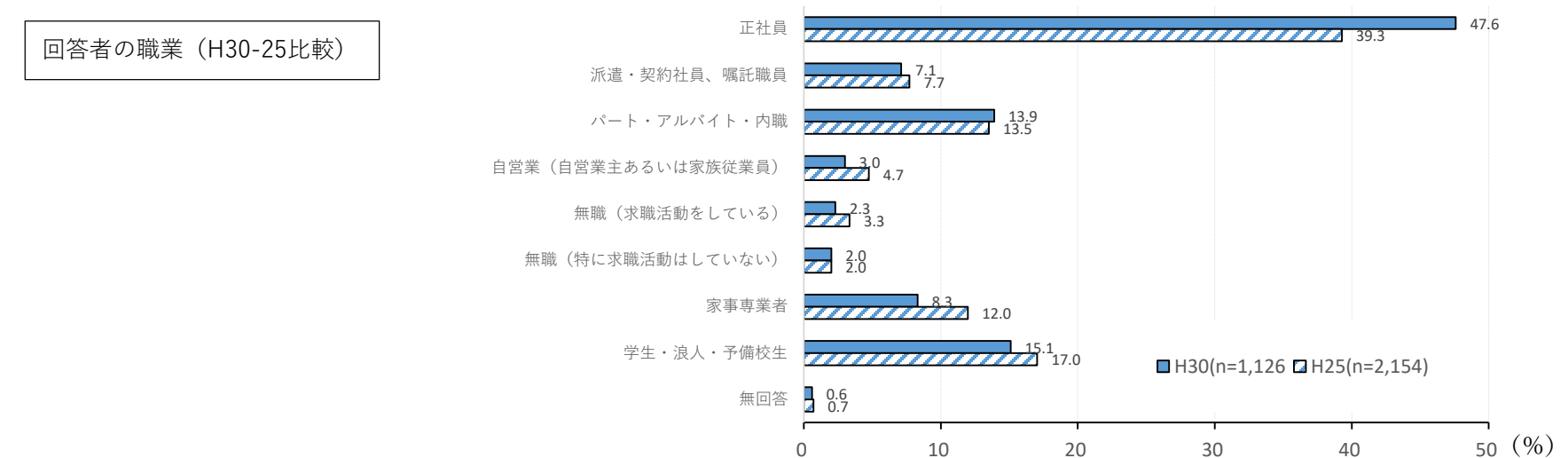


➤ 回答者の年齢は、「35～39歳」が26.0%で最も多く、次いで「30～34歳」が24.0%、「25～29歳」が22.6%となっている。



若者の状況

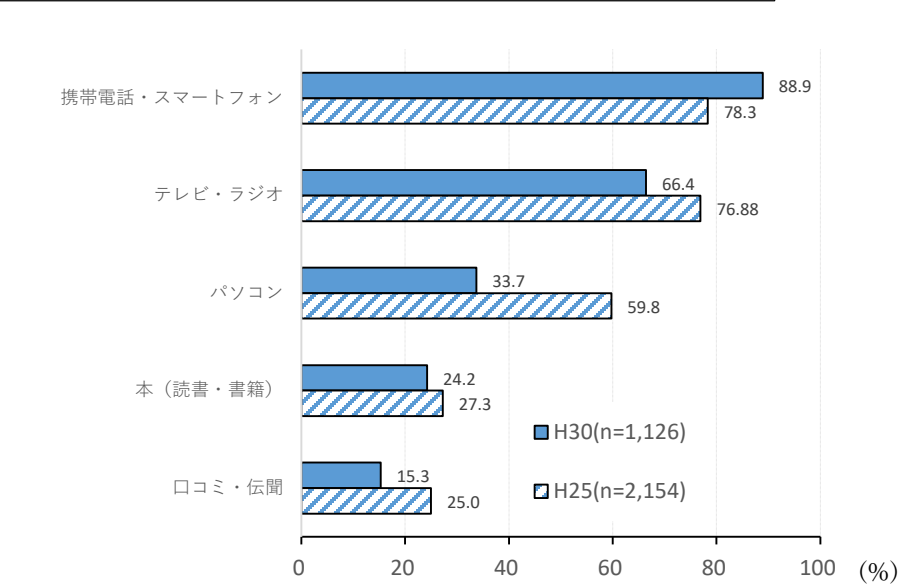
- 回答者の職業は「正社員」が47.6%で最も多く、次いで「学生・浪人・予備校生」が15.1%、「パート・アルバイト・内職」が13.9%となっている。
- 平成25年調査と比べ、「正社員」が増えている。



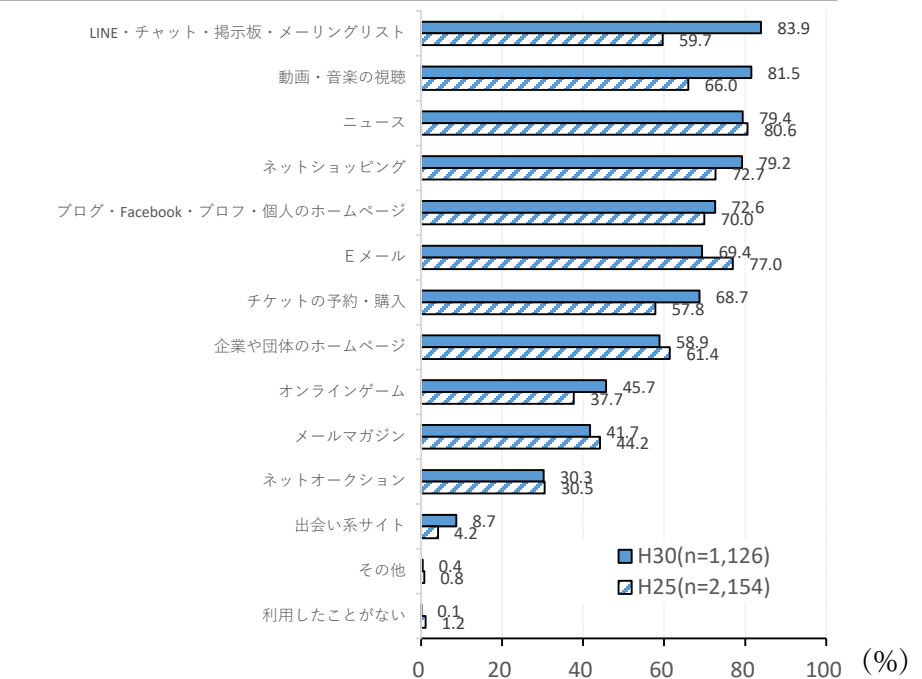
メディア利用

- 情報入手時によく利用するものについては、「携帯電話・スマートフォン」が88.9%で最も多く、次いで「テレビ・ラジオ」が66.4%、「パソコン」が33.7%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「テレビ・ラジオ」と「パソコン」の割合が低くなり、「携帯電話・スマートフォン」の割合が高くなっている。

情報入手時によく利用するもの（H30-25比較）上位5つ

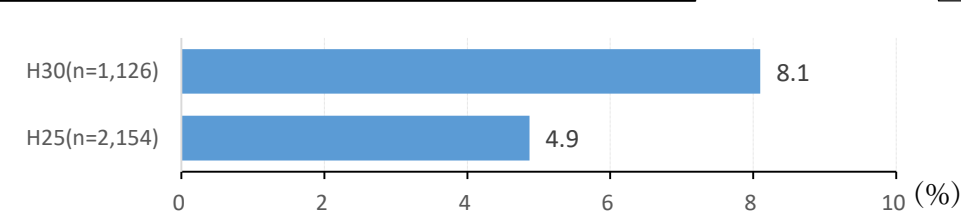


利用したことのあるインターネットサービス（H30-25比較）

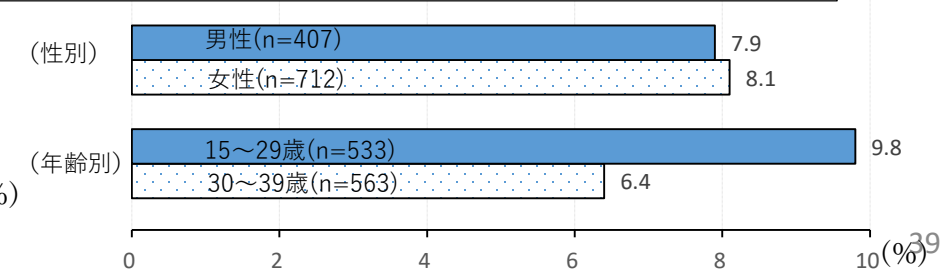


- 普段一緒に遊んだり連絡することが多い人について、平成25年調査の結果と比べると、「インターネットやSNSで知り合った友人」のポイントが高くなっている。（平成25年：4.9%、平成30年：8.1%）

インターネットやSNSで知り合った友人（H30-25比較）



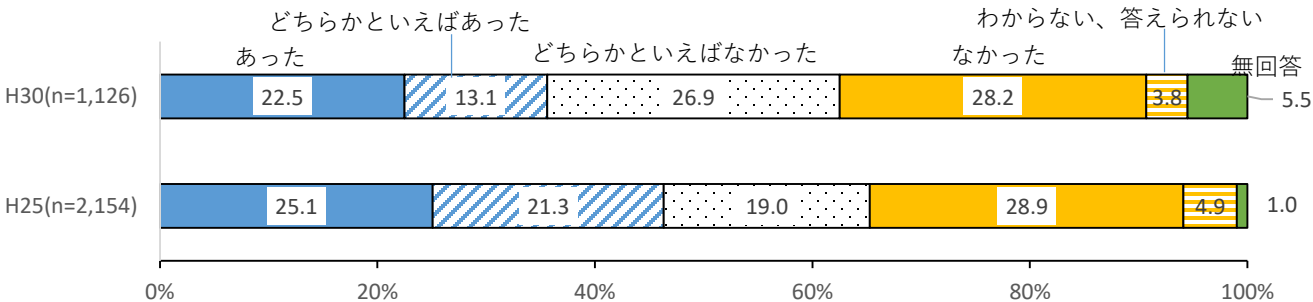
インターネットやSNSで知り合った友人（H30）性別・年齢別



社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験

- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験については、「なかった」が28.2%で最も多く、次いで「どちらかといえばなかった」が26.9%、「あった」が22.5%、となっている。「あった」と「どちらかといえばあった」をあわせて35.6%が『経験があった』と回答している。
- 平成25年調査の結果と比べると、「あった」と「どちらかといえばあった」をあわせた『経験があった』の割合が低くなっている。（平成25年：46.4%、平成30年：35.6%）

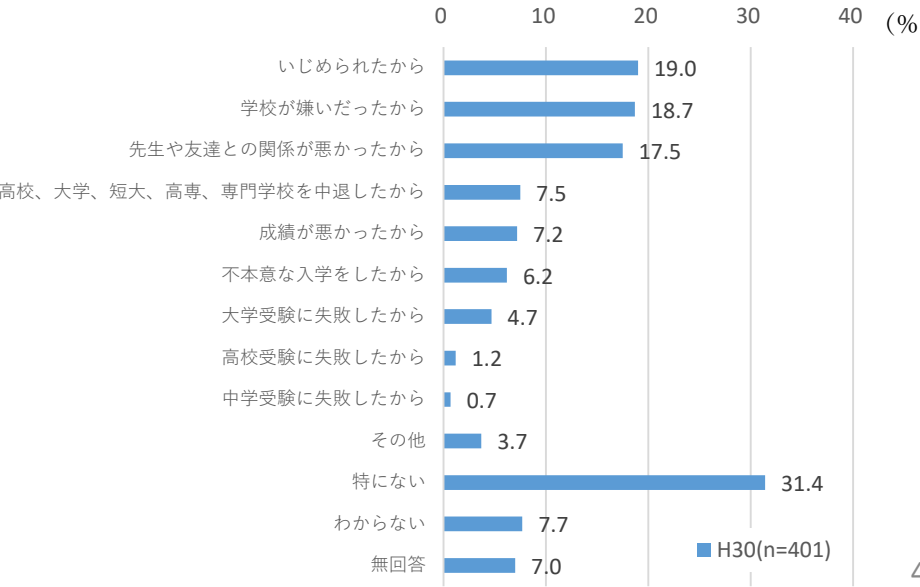
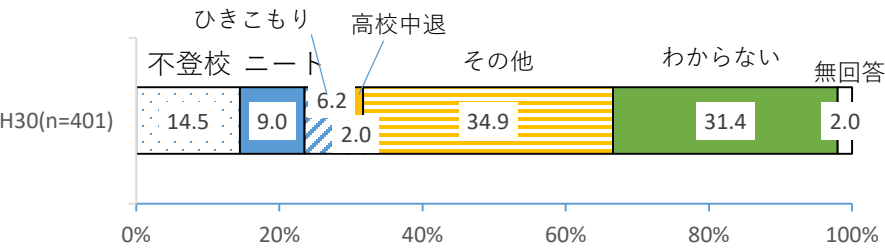
社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験（H30-25比較）



- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった経験があったと回答した人に、その最大の原因についてたずねると、「不登校」が14.5%で最も多く、次いで「ニート」が9.0%、「ひきこもり」が6.2%となっている。また、「わからない」が31.4%を占めている。

- 社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった理由のうち、学校に関するものでは、「特になし」が31.4%で最も多く、次いで「いじめられたから」が19.0%、「学校が嫌いだったから」が18.7%となっている。

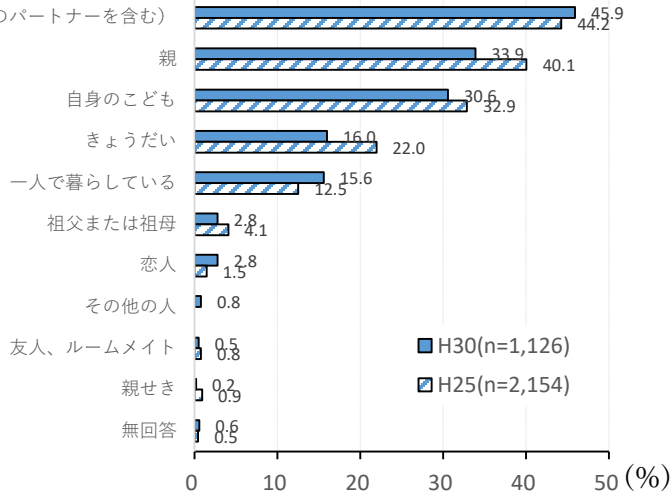
社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった最大の原因（H30）



若者の状況

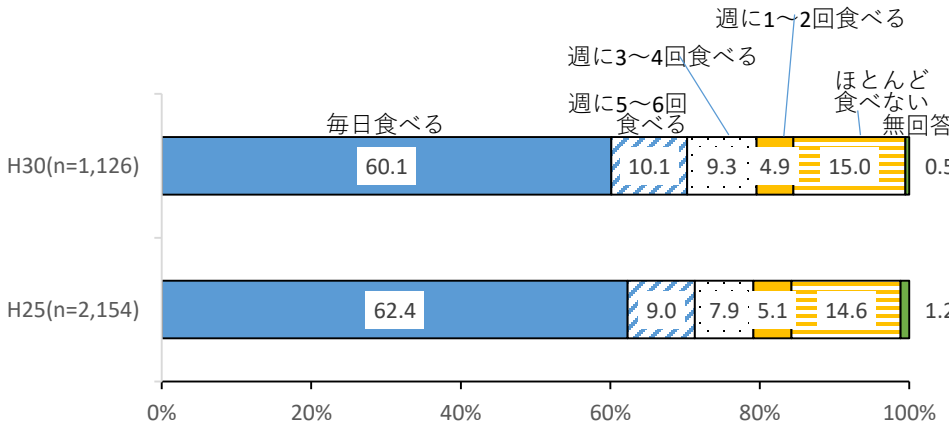
➤ 回答者の同居者は、「配偶者（事実婚のパートナーを含む）」が45.9%で最も多く、次いで「親」が33.9%、「自身のこども」が30.6%となっている。

同居者（H30-25比較）



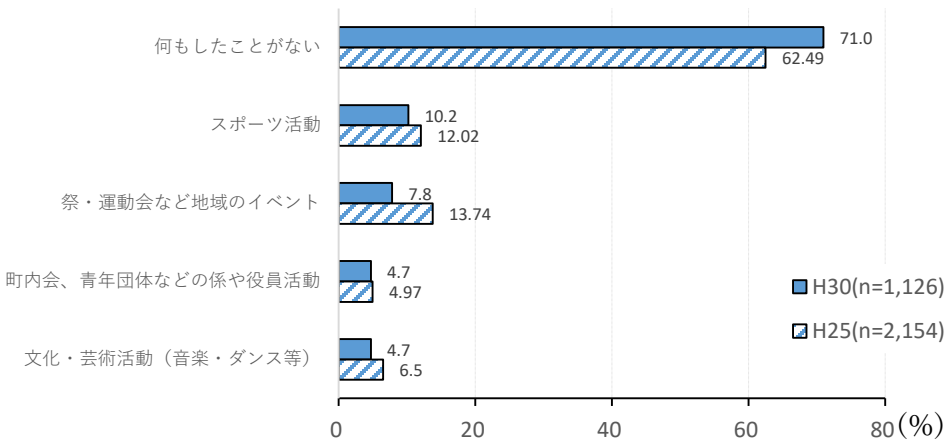
➤ 朝食の摂取状況は、「毎日食べる」が60.1%で最も多く、次いで「ほとんど食べない」が15.0%、「週に5～6回食べる」が10.1%となっている。

朝食の摂取状況（H30-25比較）



➤ 現在またはこの1年以内に参加している活動については、「何もしたことがない」が71.0%で最も多い。
➤ 平成25年調査の結果と比べると、「何もしたことがない」のポイントが高くなっている。

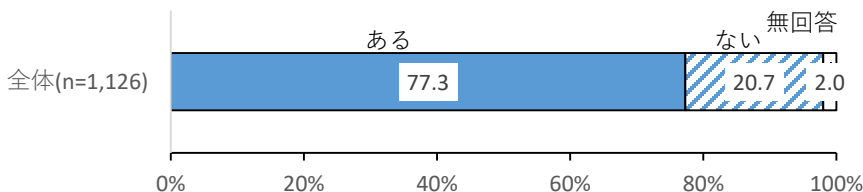
参加している活動（H30-25比較）上位5つ



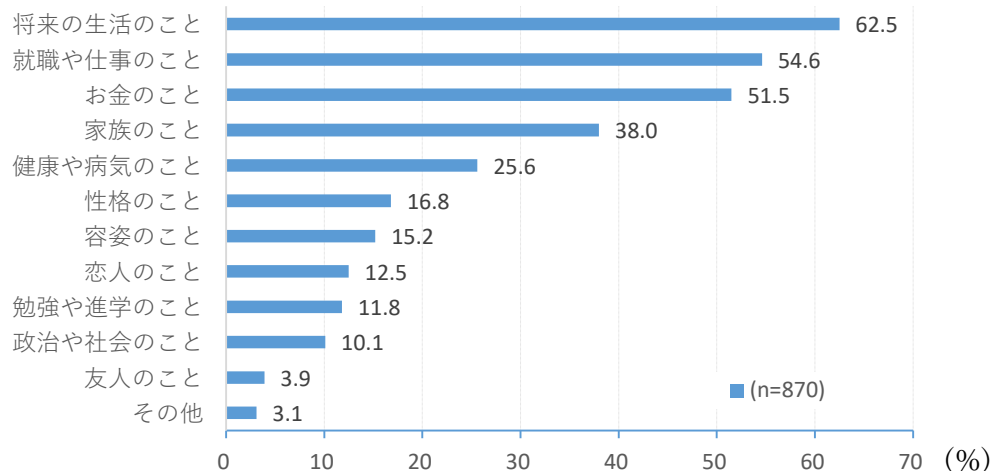
若者の考え

- 悩みや心配ごとの有無については、「ある」が77.3%、「ない」が20.7%となっている。
- 悩みや心配ごとがあると回答した人に、その内容をたずねると、「将来の生活のこと」が62.5%で最も多く、次いで「就職や仕事のこと」が54.6%、「お金のこと」が51.5%となっている。

悩みや心配ごとの有無 (H30)

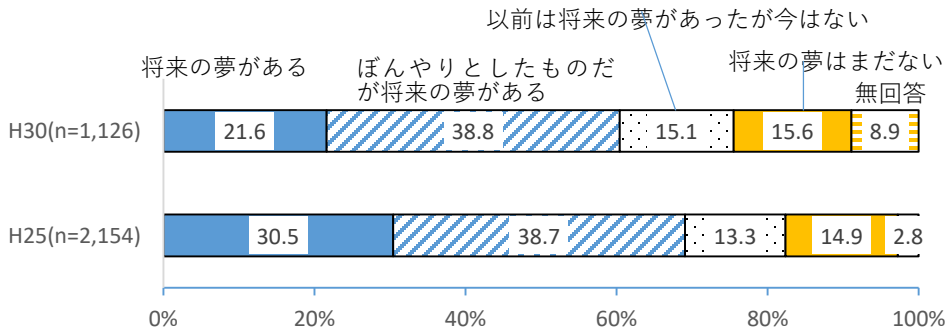


悩みや心配ごとの内容 (H30)



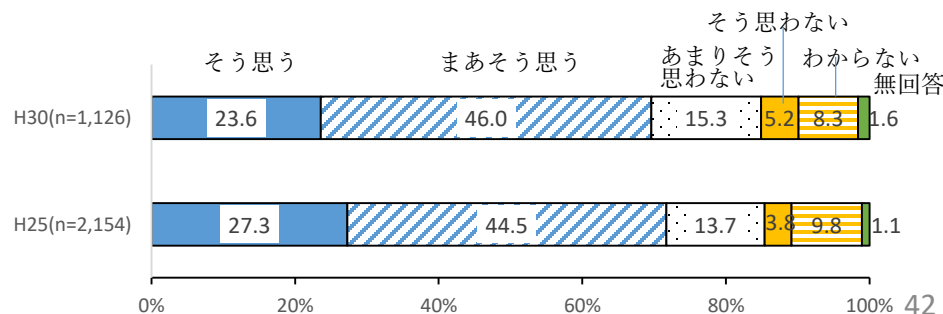
- 将来の夢の有無については、「ぼんやりとしたものだが将来の夢がある」が38.8%で最も多く、次いで「将来の夢がある」が21.6%で、両者をあわせた60.4%が『将来の夢がある』と回答している。
- 平成25年調査の結果と比べると、「将来の夢がある」と「ぼんやりとしたものだが将来の夢がある」をあわせた『将来の夢がある』の割合が低くなっている。（平成25年：69.2%、平成30年：60.4%）

将来の夢の有無 (H30-25比較)



- 社会や地域の人のために役に立ちたいと思うかについては、「まあそう思う」が46.0%で最も多く、次いで「そう思う」が23.6%で、両者をあわせた69.6%が社会や地域の人のために役に立ちたいと考えている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた『そう思う』の割合に大きな変化はみられない。（平成25年：71.8%、平成39年：69.6%）

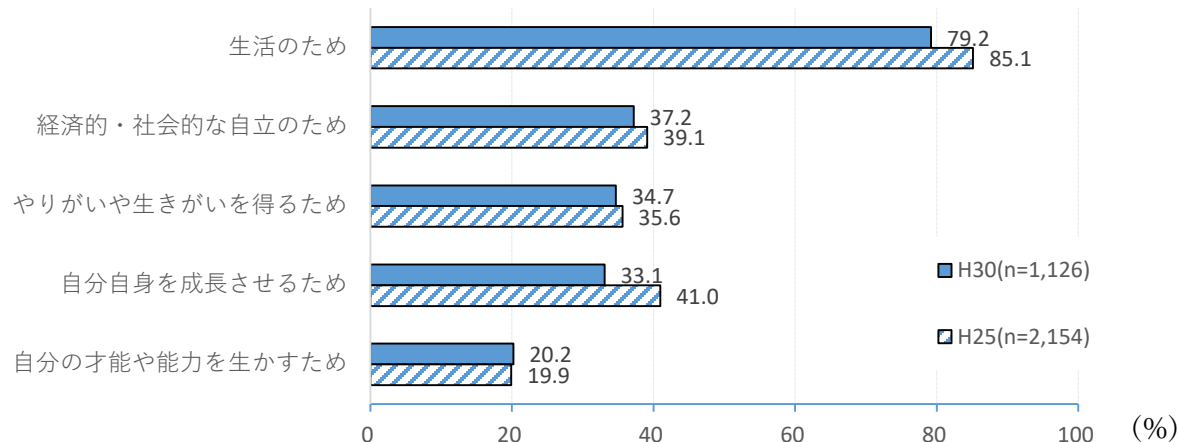
社会や地域の人のために役に立ちたいと思うか (H30-25比較)



仕事・結婚①

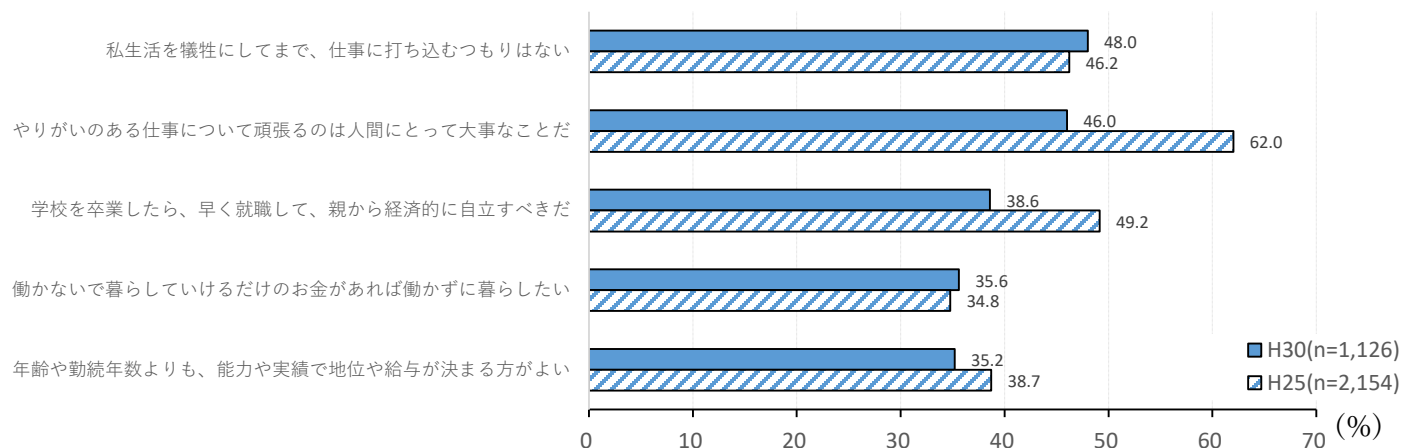
- 働く目的については、「生活のため」が79.2%で最も多く、次いで「経済的・社会的な自立のため」が37.2%、「やりがいや生きがいを得るため」が34.7%、「自分自身を成長させるため」が33.1%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「自分自身を成長させるため」のポイントが7.9ポイント低くなっている。

働く目的（H30-25比較）上位5つ



- 職業に対する考えについては、「私生活を犠牲にしてまで、仕事に打ち込むつもりはない」が48.0%で最も多く、次いで「やりがいのある仕事について頑張るのは人間にとって大事なことだ」が46.0%、「学校を卒業したら、早く就職して、親から経済的自立すべきだ」が38.6%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「やりがいのある仕事について頑張るのは人間にとって大事なことだ」のポイントが16.0ポイント低くなっている。（平成30年：46.0%、25年：62.0%）

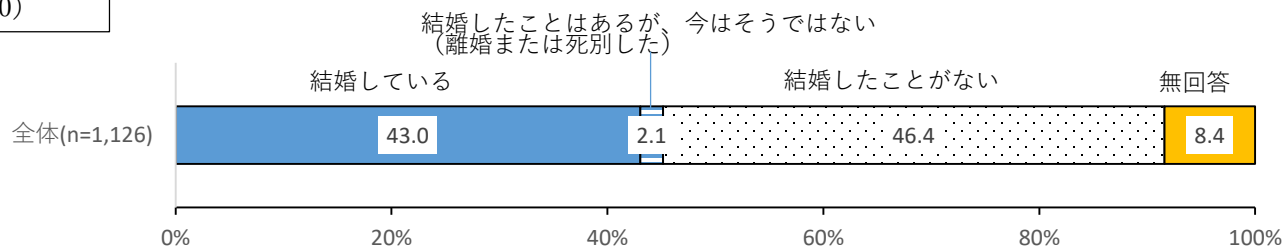
職業に対する考え
（H30-25比較）上位5つ



仕事・結婚②

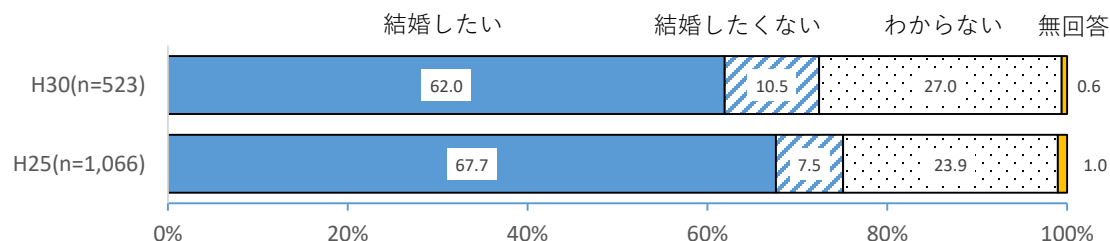
- 結婚の有無については、「結婚したことがない」が46.4%で最も多く、次いで「結婚している」が43.0%、「結婚したことがあるが、今はそうではない（離婚または死別した）」が2.1%となっている。

結婚の有無（H30）

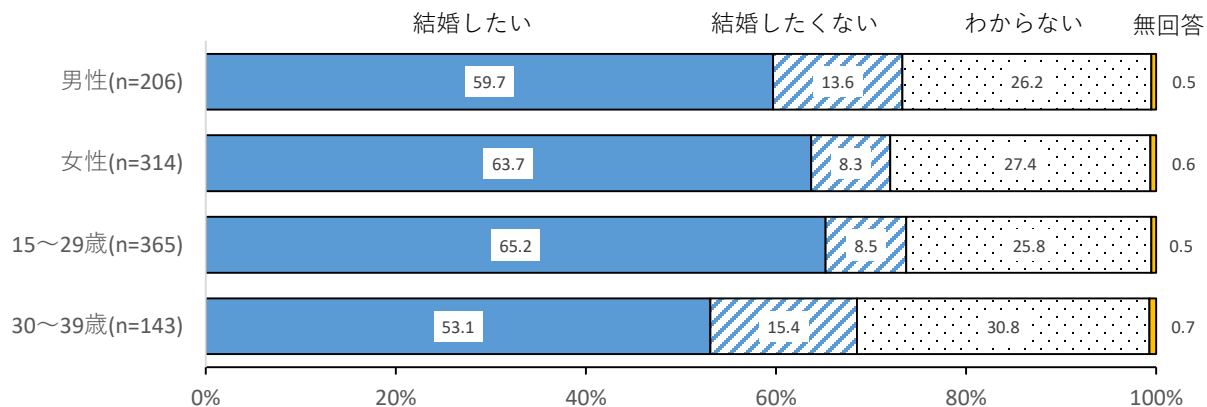


- 結婚したことがないと回答した人に、今後の結婚についてたずねると、「結婚したい」が62.0%で最も多く、次いで「結婚したくない」が10.5%となっており、「わからない」が27.0%を占めている。

今後の結婚意向（H30-25比較）全体



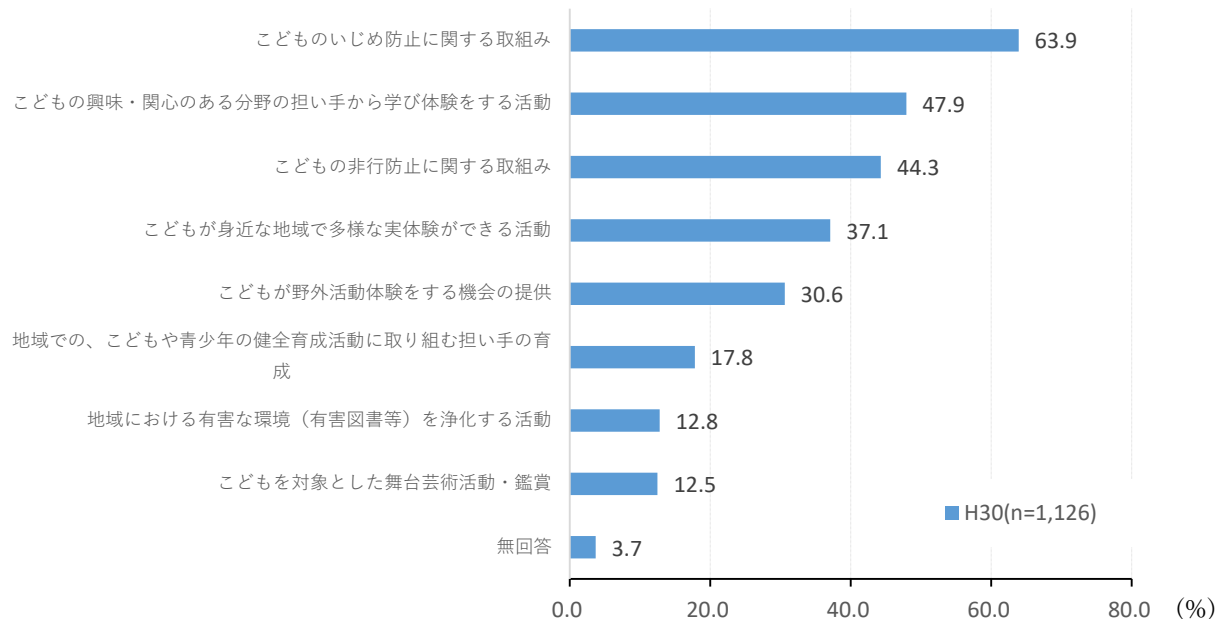
今後の結婚意向（H30）性別・年齢別



こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策等

- こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策については、「こどものいじめ防止に関する取組み」が63.9%で最も多く、次いで「こどもの興味・関心のある分野の担い手から学び体験をする活動」が47.9%、「こどもの非行防止に関する取組み」が44.3%となっている。

こどもの健全育成のために優先して実施すべき施策（H30）



- 将来ずっと大阪市に住んでいたいかについては、「住んでいたい」が50.4%で最も多く、「移り住みたい」は16.3%となっている。
- 平成25年調査の結果と比べると、「住んでいたい」の割合が5.2%高くなっている。

大阪市の継続居住意向（H30-25比較）

